

研究課題名：

ダニ媒介性ウイルス感染症の後方視的調査研究

研究の目的と方法：

ダニ媒介性感染症として、ライム病や新興回帰熱などの細菌感染症，ならびに重症熱性血小板減少症候群(SFTS)やダニ脳炎などのウイルス感染症が我が国に常在することが知られています。これに加え，2021年にクリミア・コンゴ出血熱ウイルスと同じブニヤウイルス目ナイロウイルス科のエゾウイルスによるヒト感染例が我が国で確認されました。また，海外ではヒト病原性を示すダニ媒介性ウイルス（オルソミクソウイルス科ウイルスなど）が多種報告されていますが，これらに近縁なウイルスが国内産ダニからも分離検出されています。SFTSやエゾウイルス感染症が，後方視的調査でウイルスの発見より以前から国内で疾患が発生していたことが明らかになったように，これらウイルスが国内でもヒト疾病の原因となっている可能性が考えられています。

ライム病は皮膚症状，循環器症状，神経症状など多彩な病態を示す発熱性の疾患です。また，新興回帰熱は SFTS などと同様に急性の高熱を主症状とすることが知られています。このため，国内のエゾウイルス感染例などにおいても，当初，ライム病や新興回帰熱などのボレリア感染症が疑われましたように，ダニ刺咬が背景にある患者様で，かつ，前記ボレリア感染症が否定された症例の一部は，エゾウイルスや前記の未知ウイルスによる感染症であった可能性もあります。

そこで本研究では，ボレリア感染症が疑われた症例について，エゾウイルス感染症を端緒とする後向きの疫学調査を実施し，我が国におけるエゾウイルスを主とするこれらダニ媒介性ウイルス感染症の実態解明を行うことを目的としています。

研究の対象者及び対象期間：

1995年4月1日以後から2021年11月30日までの期間に，受診医療機関を通じて国立感染症研究所に，ライム病，新興回帰熱などのボレリア感染症の検査のために情報と検体を送付された方

研究に利用する試料・情報：

検査依頼機関からボレリア感染症の検査のために国立感染症研究所に提供された情報と検査結果，検体の残余（国立感染症研究所で受領した情報は，送付時に個人が特定されないように匿名化されており，研究の対象者を特定することが出来ません。当所に提供された情報には，性別，年齢，地域情報，臨床症状，ボレリア感染症の抗体検査結果等を含みます。）

研究組織：

国立感染症研究所，北海道大学

試料・情報の管理について責任を有する者：

[試料・情報の管理]

国立感染症研究所 細菌第一部 室長 川端寛樹

北海道大学 人獣共通感染症国際共同研究所 講師 松野啓太

お問い合わせ先：

〒162-8640 東京都新宿区戸山 1-23-1

国立感染症研究所 川端寛樹（研究責任者）

TEL 03-5285-1111 FAX 03-5285-1163